

留学の決め手は、自然科学、社会科学、 両面から環境を学ぶこと

都市環境学専攻 博士後期課程2年

Marianne Faith Martinico-Perezさん

国籍/フィリピン

フィリピンからの留学生、Marianne Faith Martinico-Perezさん。フィリピンでは、パラワン持続可能な発展評議会と環境・天然資源省に勤務し、今は留学のために休職中。4年前から名古屋で暮らしている。

所属する谷川寛樹研究室では、マテリアル・フロー分析に取り組んでいる。「マテリアル・フローとは、経済成長や政策の変化によって、資源に対する需要がどのように変化し、その結果、環境負荷がどこでどのように変化するかを「見える化」するものです。フィリピンのように、経済成長で社会が大きく変化している発展途上国では、マテリアル・フロー分析は、環境と経済とのバランスのとれた発展を考えるうえで、非常に有効だと考えています」。

Marianne Faith
Martinico-Perezさん



谷川研究室では、学会発表やインターン・シップに参加したり、工場見学、合同ゼミを開催したり、ときどきパーティも開いたり、とても充実していると言う。博士号を取得した後は、フィリピンに帰国。復職し、環境学研究科で得た知識と経験をフィリピンの環境問題の解決に活用する日を楽しみにしている。

編集後記

今回のテーマである「時間スケール」は私の研究にも深く関わるキーワードです。月や惑星の歴史を読み解く際に、私のような太陽系歴史学者は数十億年という時間スケールで物事を考えます。一方、人間の歴史学、考古学の研究者は数千年～数十年の時間スケールで物事を考えるでしょう。異なる時間軸を持つ研究者が同じ題材を与えられた時にどのような考え方をするのか、に興味を湧き今回のテーマを設定しました。環境学のような異種格闘技の世界で、互いの研究を（まずは浅く）知るためには共通点・相違点をクリアにすることがスタートかと思えます。時間スケールはそれを考える上での一つの切り口ではないでしょうか。（諸田智克）

環

KWAN

名古屋大学大学院
環境学研究科

Vol. 33 2017年9月

【環・33号 広報委員会】

諸田 智克(環33号編集委員長)

堀 和明(広報委員長)

中川 書子

小松 尚

白川 博章

西澤 泰彦

河村 則行

編集/編集企画室 群

デザイン/オフィスYR